

施策評価シート

【施策の概要】

登録者(課長)名【1】		障害福祉課長 青柳 元久	
主管課(関係課)【2】		障害福祉課	
施策名【3】		分野【4】	
笑1-3 障害者福祉の充実		だれもが地域で安心して暮らすために	
		まちづくりの方向性【5】	
		笑顔で暮らすまちづくり	
概要	施策全体の課題【6】		障害者基本法の改正や、障害者総合支援法の施行により、個々の障害者がかけがえのない個人として尊重され、障害の有無にかかわらず相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会(＝共生社会)の実現が求められています。 日常生活や社会生活をおくる中で支援が必要な人は年々増加しています。発達障害者や高次脳機能障害者、難病患者など、支援を必要とする人の態様も多様化しています。そのため、支援体制を強化するとともに、共生社会を実現していくためには、障害や障害者に対する理解や、民間活力の導入が不可欠です。 今後は、市民や関係団体と協働し、多様化するニーズやライフステージに応じた障害者福祉施策の充実を図ることや、障害や障害者に対する理解を深めるための普及・啓発活動、障害者を抱える家族の孤立化防止支援、障害者の就労の場を増やすための支援体制などを、総合的かつ計画的に進めていくことが必要です。
	留意すべき点(都などの制度の変化・その他制約条件・社会環境の変化)【9】		障害のある人が住み慣れた地域で暮らすことができ、障害のある人もない人も共生できるまちをめざします。
	施策実現へむけたキーワード【7】 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆相談支援体制の充実</li> <li>◆市民や関係団体と協働し、障害者福祉施策の充実を図る</li> <li>◆市民の障害者への理解を高める普及・啓発や情報提供</li> </ul>		障害のある人が住み慣れた地域で暮らすことができ、障害のある人もない人も共生できるまちをめざします。
今後の方針 ◇平成28年4月に障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)が施行され、地域共生社会の実現も視野に、これまで以上に障害者理解のための普及啓発を行う必要があります。 ◇西東京市においては、何らかの障害のある人(障害者手帳所持者、難病医療助成対象者等)の数が、年々増える傾向にあります。			
事業群名【10】		事業群の施策上の位置づけ【11】	
1	住み慣れた地域で暮らせるしくみづくりを進めます	障害者福祉施策の充実	
2	障害者への一体的支援体制を整備します	相談支援体制の充実	
3	障害者に対する理解の促進を図ります	市民の障害者への理解を深める普及・啓発や情報提供	

【施策の成果】

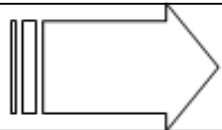


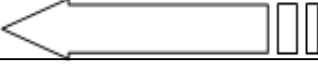

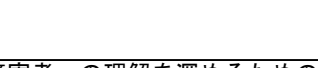
			年度	24	25	26	27	28	29	
成果指標【12】	指標1	名称	「障害者福祉の充実」に対する満足度	目標値	18%			単位	%	
		算出式・説明	障害のある人が住み慣れた地域で暮らしていけるように、市が行っている「障害者福祉の充実」の取組に対する評価を、市民意識調査の「市民満足度」により把握します。	実績値	15.8	15.8	15.8	14.7	14.7	18.6
		達成率		88%	88%	88%	82%	82%	103%	
	指標2	名称	グループホーム等の利用者人数	目標値	175人			単位	人	
		算出式・説明	自立をめざす障害者が、住み慣れた地域に移行して暮らしていくためには、少人数で共同生活を行うグループホームの果たす役割は重要であり、グループホーム利用者人数を増やすことを目標とします。	実績値	100	108	138	159	176	
		達成率		57%	62%	79%	91%	101%	0%	
	指標3	名称	地域活動支援センター利用者数	目標値	310人			単位	人	
		算出式・説明	地域で暮らす障害者の生活を支援し、様々な相談に応じる社会復帰施設として地域活動支援センターの果たす役割は重要であり、センター利用者数が増えることを目標とします。	実績値	201	235	230	267	293	
		達成率		65%	76%	74%	86%	95%	0%	
	指標4	名称		目標値				単位		
		算出式・説明		実績値						
		達成率								
達成率の平均値					70%	75%	80%	86%	93%	34%

【市民意見】【13】

24年度		27年度		29年度	
満足度(%)	15.8%	満足度(%)	14.7%	満足度(%)	18.6%
満足度(平均ポイント)	-0.05	満足度(平均ポイント)	-0.01	満足度(平均ポイント)	0.02
重要度(%)	74.4%	重要度(%)	73.8%	重要度(%)	74.8%
重要度(平均ポイント)	1.15	重要度(平均ポイント)	1.16	重要度(平均ポイント)	1.25

各年次の市民意識調査で、施策ごとの「満足、やや満足」「重要、やや重要」の合計値として算出しています。

【一次評価】

検証項目	施策の成果と課題	施策成果の目標達成状況【14】 <input type="checkbox"/> まだ未達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 目標を大きく上回る	
		意識調査での満足度【15】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ平均 <input type="checkbox"/> 平均を上回る	
施策の成果と課題(取組成果や目標達成に向けた課題、成果向上・コスト削減策等)【16】	◇障害者グループホームは、現在37ユニットが市内に設置されており、ここ数年で整備が進み、利用者も増加傾向にあります。一方で、バリアフリー化に対応するスペース、設備が必要となること、身体介護等に複数名での介助が必要な場合があること等、身体障害者対象のグループホーム整備には、解決すべき課題があります。 ◇長年の課題となっていた知的障害者を対象とする地域活動支援センターについては、平成28年10月に田無総合福祉センター内にブルームを開設しました。身体障害者を主な対象とする保谷障害者福祉センター、精神障害者を主な対象とするハーモニーとあわせて、相談体制の充実や、創作的活動の提供等を行っています。身体障害者や高次脳機能障害者に対して、リハビリテーション等のサービスを提供している保谷障害者福祉センターの利用者は年々増加しており、引き続き利用者の増加傾向は続く見込まれていますが、施設の制約等により、充分に対応できていない現状があります。 ◇講演会や市民まつり、障害者週間イベントなどでの普及啓発活動や、西東京市独自の取り組みである障害者サポーター養成講座等を通じて、障害や障害者への理解を深めるための取り組みを、障害者総合支援センターの指定管理者とも連携して行っていますが、より多くの方に理解を求める取り組みを継続して実施する必要があります。		
検証項目	今後の方針	施策の重要性の変化【17】 <input type="checkbox"/> 弱くなっている <input checked="" type="checkbox"/> 以前と同程度 <input type="checkbox"/> 強くなっている	
		意識調査での重要度【18】 <input type="checkbox"/> 平均を下回る <input type="checkbox"/> ほぼ平均 <input checked="" type="checkbox"/> 平均を上回る	
今後の方針(具体的な事業群や事務事業を示しながら)【19】	◇国は福祉施設入所者の地域生活への移行を基本方針としていること、親亡き後を見据えた居住の場の整備に対するニーズの高さから、自立を目指す障害者が、住み慣れた地域に移行して暮らしていくためには、少人数で共同生活を行うグループホームの果たす役割は重要であり、今後も障害のある方が地域で自立して暮らせるよう、物件等に関する情報提供を行う等、引き続き新規事業者の誘致等を図っていきます。なお、閉校となった泉小学校の跡地を活用する障害者福祉施設整備においては、日中活動系サービスや短期入所と共に、グループホームを設置する方向で進めることとし、施設の整備、事業運営を行う社会福祉法人等を、平成29年末までに選定するための準備を進めています。 ◇保谷障害者福祉センターにおける課題解決のため、富士町福祉会館との合築整備について、高齢者施設と障害者施設の合築による効果について調査・検討を進めていきます。また、知的障害者の地域活動支援センター・ブルームは、スペースが限られているため、田無総合福祉センター内の施設を有効活用する等によるプログラム内容を検討します。 ◇市が関係する各種イベントへ障害者作業所や支援団体が出店者として参加することで、ひろく市民の方が障害のある方と接することができる機会をもてるよう、関係各課と調整を行うほか、試行実施している作業所等のバザーやイベントに関する情報発信の検証を行い、効果的な情報発信の方法を検討します。		
総合評価	施策内容の方向性【20】 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性【21】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 効率化		
	施策実施方針【22】 II 成果の向上を図りつつ、コストは現状を維持する施策領域		
説明【23】			
【一次評価後の事情変更等】			
総合評価	施策内容の方向性【20】 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 絞込み		
	施策実施コストの方向性【21】 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 効率化		
	判断理由等【24】	障害者福祉の充実については、グループホームや地域活動支援センターの整備、障害者への理解を深めるための普及啓発等に取り組んできました。 市民意識調査結果では、前回調査と比べ、満足度・重要度ともに大きな変化は見られませんが、引き続き重要度が高くなっています。一方で、施策目標はほぼ達成しています。そのため、実施コストを抑制しつつ、施策内容の拡充に努めるべきと判断しました。 今後は、旧泉小学校跡地での障害者福祉施設の整備や、富士町福祉会館と保谷障害者福祉センターとの合築について、民間活力の活用や施設の複合化により効率的な整備を進めていく必要があります。 引き続き、障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会の実現に向けて、障害者が自立した生活を送るための支援を行うとともに、障害や障害者への理解を深めるための普及啓発を継続することも重要です。	
	施策実施方針【22】 III 成果の向上を図りつつ、コストを抑制する施策領域		

【施策内の事務事業貢献度判定】

笑1-3 障害者福祉の充実

事業群	名称【25】	担当課【26】	概要【27】
	富士町福祉会館と保谷障害者福祉センターの合築に向けた調査・検討	障害福祉課	富士町福祉会館と保谷障害者福祉センターの合築整備については、高齢者施設と障害者施設の合築による効果について調査・検討を進めていきます。
	障害者地域活動支援センター事業の充実	障害福祉課	平成28年10月に知的障害者を主な対象とするブルームを新たに開設し、身体障害者・高次脳機能障害者対象の保谷障害者福祉センター、精神障害者対象のハーモニーとともに、地域社会における自立した日常生活及び社会生活を送るために必要な支援を行っています。
	障害者総合支援センターの運営	障害福祉課	障害者のための相談や支援、市民の交流・活動の場として利用する障害者総合支援センター・フレンドリーの運営を行っています。
3	普及啓発・地域交流事業の充実	障害福祉課	障害福祉に関する講演会の開催や、西東京市民まつりや障害者週間行事等のイベントでの普及啓発活動、障害者総合支援センターでの地域交流イベントの開催等を実施しています。また、障害者サポーター養成講座を実施して、障害や障害者に対する理解を深める取り組みを行っています。
事業の合計			

総コスト(千円) ：評価年度【28】	事務事業の評価(直近)【29】		26市のサービス水準との比較【30】	施策における位置づけ【31】	貢献度【32】	
	事業費	人件費				
0	0	0		支援を必要とする障害者が少人数で居住する携帯であるグループホームは、障害者の地域生活支援の社会資源として重要です。	A	
0	0	0		現在の施設配置数を維持しつつ、ニーズに即した機能の拡充に努めるために、合築を検討していきます。	B	
153,818	153,486	332	改善・見直し(平成28年度)	中	地域で暮らす障害者の生活を支援し、様々な相談に応じる社会復帰施設として地域活動支援センターは重要です。	A
185,484	185,069	415	改善・見直し(平成25年度)	上	障害者総合支援センターは、地域で生活する障害者の自立と社会参加を促進するための地域生活の拠点です。	A
2,652	990	1,662			障害の有無にかかわらず市民が相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現を目指します。	A
341,954	339,545	2,409				